

公開講演会

講師

村上靖彦 むらかみやすひこ

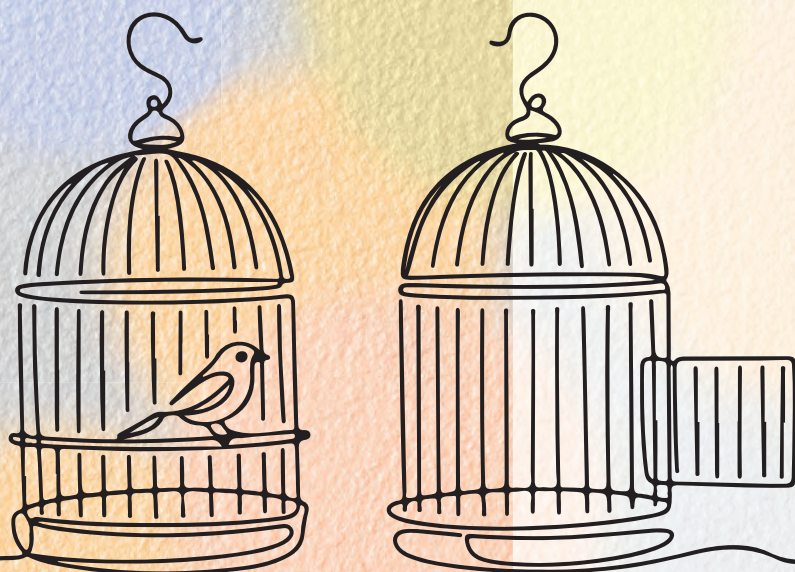
大阪大学人間科学研究科教授

刑務所で

当事者研究を

やってみた

— 拘禁刑、対話実践とチーム処遇 —



2026.6.23 火

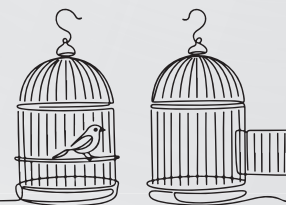
13:15~14:45 ※開場12:40

東京女子大学講堂 (東京都杉並区善福寺2-6-1)

【アクセス】JR西荻窪駅または吉祥寺駅から関東バスで「東京女子大前」下車

【案内】東京女子大学比較文化研究所 <http://www.lab.twcu.ac.jp/icsc/home.html>





●講演概要

2025年6月の改正刑法施行にともない118年ぶりに懲役刑・禁錮刑が廃止され拘禁刑に移行しました。改正刑法では、受刑者の高齢化や再犯率の高止まりといった現代の状況を受けて大きな組織改革を目指しています。特に、懲役から拘禁刑への転換は、懲罰から更生へと刑罰の思想を根本から変更する意味をもちます。本講演では、講師の村上靖彦氏のグループが拘禁刑導入の準備として札幌刑務所でおこなってきた「精神障害をもつ受刑者のみなさんとの当事者研究」についてお話しします。受刑者が抱える困難やケアの可能性について、具体的に考えていけたらと思います。

●講師紹介

村上 靖彦 Yasuhiko MURAKAMI 大阪大学教授

大阪大学人間科学研究科教授・感染症総合教育研究拠点 CiDER 兼任教員、著書に『子どもたちがつくる町 大阪・西成の子育て支援』（世界思想社、2021）、『ケアとは何か 看護・福祉で大事なこと』（中央公論新社、2021）、『「ヤングケアラー」とは誰か 家族を“気づかう”子どもたちの孤立』（朝日新聞出版、2022）、『客観性の落とし穴』（筑摩書房、2023）、『傷つきやすさと傷つけやすさ ケアと生きるスペースをめぐる男性研究者が考えたこと』（KADOKAWA、2025）、『刑務所で当事者研究をやってみた 対話実践とチーム処遇が扉をひらく』向谷地生良との共編著（医学書院、2026）他

刑務所で 当事者研究を やってみた

拘禁刑、対話実践とチーム処遇



アクセス

■JR西荻窪駅北口より徒歩12分

■バス利用の場合

- ◎西荻窪駅北口(1番のりば)から吉祥寺駅行、「東京女子大前」下車
- ◎吉祥寺駅北口(3番のりば)から西荻窪駅行、「東京女子大前」下車
- ◎上石神井駅南口から西荻窪駅行、「地蔵坂上」下車徒歩5分

【所在地】〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1

※車での来場はご遠慮ください。

